

**さざなみ** : **滋賀医科大学附属図書館報** No.26  
(1986.10)

|     |   |
|-----|---|
| 発行年 | 1986-10   |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10422/1137">http://hdl.handle.net/10422/1137</a> |

# ちどなみ



No. 26

目 次

1986年10月

## 《エッセイ》

- 草津の小鳥達 ..... 藪本 栄三 ..... 2  
アメリカ花みずき ..... 篠原 俊夫 ..... 3

## ◇連 載◇

- 地域の医療を考える 16  
国立病院・療養所の再編成によって ..... 高橋 達夫 ..... 4  
古医書へのご招待  
ある天才語学者の一生 ..... 松本 治郎 ..... 5  
図書館の本を持ち出す時は貸出手続きを！ ..... (S.W) ..... 7  
図書館の活動 (61.3.1～9.30) ..... 9

## 本 学 関 係 者 寄 贈 図 書

土井田 幸郎 (生物学教授)

医科生物学 長野 敬、内海耕慥 編 (理工学社 1984)

今井 至 (リハビリテーション部)

滋賀県士会 十年のあゆみ (会誌第5号) (滋賀県理学療法士会 1986)

ありがとうございました。

## 《エッセイ I》

# 草 津 の 小 鳥 達

藪 本 栄 三

チロリン村こと、わが南笠宿舎の一带は野鳥の天国である。初夏の頃ともなると、夜も明けぬうちからホトトギスのぐずった声が夢うつつのうちに聞こえてくる。やがてケンケンと勇ましいキジの声がしたかと思うと、チョットコイチョットコイのコジュケイの叫び声が湧き上がる。陽が射しはじめる頃になると、あちこちでホオジロが競うようにさえずり出す。建物の屋上では、セグロセキレイが高らかにナワバリ宣言をしている。私のようなものぐさ人間にとっては、寝ながらにしてバードウォッチングならぬバードヒアリングができるのはまことにありがたい。

ある朝、キッ・キッ・キッとかん高く鳴きながら飛びまわる鳥の声で目が覚めた。聞き覚えのない声なので、急いで枕元の双眼鏡を取り出してベランダ越しに見てみると、白黒のコントラストも鮮やかなハトぐらいの鳥がふわふわと飛んでいる。初めて見る鳥であるが、それが大型の千鳥の一種、ケリであることはすぐに分った。その後もこのケリをしばしば見かけるようになったが、いつも二羽が一緒に北の方からやってくる。そこで、日曜日の朝彼らが帰る方向へ追っていくと、なんと本拠地は草津の人工島であった。

島はほとんど完成して下水処理も始まっているが、近江大橋に近い西端の一角だけが未だ埋立て中で、ここが野鳥の宝庫なのであった。整地され、樹木も植えられた下水処理場の辺りにはさっぱり小鳥は寄りつかず、芝生の上でヒバリがさえずっているくらいであるが、埋立て中の場所にはヨシの群落や天然の柳の木が残っており、水溜りにはオオサギ、コサギに混って灰色の大きなアオサギがじっと佇んでいる。ヨシの中ではギョギョシのオオヨシキリが鳴き交わし、北側の琵琶湖に面した堤防の上では、無数のコアジサシがスマートな姿で舞っている。数組のケリも既に夫婦単位でナワバリを守っているようで、近よると激しく鳴き立てられた。目の前をすっと横切るつがいの小鳥が目にとまって、双眼鏡で見るとこれも初対面のソリハシシギであった。この地味な小鳥は、しばらく餌を漁ると音もなく立ち去っていった。近江大橋側に架けられた橋のたもとの湖岸へ出てみると、目の前のヨシの切れ目でバンが泳いでいた。黒い身体に額の真紅の印が映えて実にオシャレな鳥である。

これらの珍客達をいったいいつまで楽しむことができるのであろうか。人工島が美しく完成する時は、彼らが住みかを失う時でもある。東京の大井埋立て地が、中央卸売り市場の移転が遅れている間に野鳥の天国となり、作家の加藤幸子さんらの努力で野鳥公園として保存されることになったことを思い出す。

(放射線科)

## 《エッセイⅡ》

# アメリカ花みずき

篠原俊夫

大雑把な言い方だが、一昔前にはアメリカ花みずきは、その名を知る人の少ないめずらしい花であった。けれど可憐な花の姿を愛好する人々が競って庭に移し植えた結果、今ではとりたててめずらしい花ではなくなった。

春の花どきはむろんのこと、秋の紅く色づいた実の愛らしさ、加えてその実を求めて小鳥も寄ってくるときは誰しも一本を求めて庭に植えたく思うかも知れない。

花みずきはアメリカ名を dogwood (ダグウッド) という。どこかで聞いた名前であると思われる方は、失礼ながら年令を召されているはずである。戦後間もない頃から某新聞に連載されたアメリカの翻訳漫画に「ブロンディ」というのがあって、同名の女主人公の亭主として登場する、おっちょこちょいで失敗ばかりしている愛すべき人物の名前がダグウッドだったことを記憶されている人も多いだろう。

ここまで書いて念のためにダグウッド氏の綴りを確認すると、残念ながら Dogwood ではなく Dagwood であることが分った。ダグウットという発音上の類似から、私は綴りそのものも同じものと早合点していたわけである。今回、この原稿を書くことで私のそそっかしい思いちがいは、訂正されたわけだが、花どきにはやはりアメリカ花みずき、ダグウッド、愛すべき漫画の主人公というたわいのない連想が浮かんくことだけは変わらないだろう。

ともあれ花みずきの咲くのは、一年で最も恵まれた季節と言える5月の初旬である。

丁度新入生が希望にあふれて大学に入学し、受験勉強に明けくれた苦しい日々を思い出しながら、少しは落ちついた気持ちであたりを見わたす余裕ができた頃咲く花ということになる。

医大の場合、福利棟の周辺に数本植えられているが、この付近では、他に県立図書館の庭にも植えられている。そこには近縁種のヤマボウシも植えられているが、その花は、日本の花らしく地味で奥床しい風情がある。

(図書課)



## 国立病院・療養所の再編成によって

高橋 達夫

最近我が国では年齢の高齢化に伴い、疾病構造にも変化を来し、医療そのものが単に疾病の治療だけに止らず健康増進、予防衛生、リハビリテーションを含む社会復帰に至るまでの広い対象範囲に関与することが望まれるようになって来た。

このような医療内容の質的变化に伴い、医療費の膨張が国家財政を圧迫し、これらの改善のために総医療費を抑制する諸政策が施行されつつある。政府はさきに第二臨時行政調査会の答申を受け、行政改革大綱を閣議決定し、国立病院・療養所についても医療機関としての位置づけ、機能の明確化を早急に図ること、加えて経営を一層合理化するように促されて来たが、昭和60年2月1日に国立病院・療養所再編成問題等懇談会による意見書が提出され、このたび昭和61年1月9日にはその全体計画（統合・廃止・地方移譲等）が発表されるに至った。このような情勢下において、当国立療養所紫香楽病院も既存の機能を見直し、従来の運営方針に再検討を加え、医療需要の変化に対応した新たな機能付与計画がたてられ存続することになった。その概要については次の通りである。

### 1) 結核医療：

結核患者は年次減少の傾向にはあるが、未だ少数とは云え新しい患者の発生もあり、また固定化している長期入院患者もかなり残存している。また最近、県下では従来結核病棟を運営して来た一般病院にあいては漸次閉鎖の意向があ

り、このような状況をふまえて、当院は滋賀県下における結核医療の最終拠点として病床を維持し、結核患者の治療を継続していく。

### 2) 重症心身障害児（者）医療：

重症心身障害児（者）の医療施設が当院に併設されてから約10年以上を経過したが、現在ではほぼ満床の状況であり、患者の分布も県内では勿論のこと隣接府県にも及んでおり、これらを収容し治療を行っている。また当院の隣接地に県立養護学校も建設され、昭和60年4月から開校された。このようなことから更に診療体制も確立強化されたので、これらの収容治療を継続していく。

### 3) 小児慢性疾患医療：

滋賀県下においては、小児慢性疾患の収容病院及び施設の病床数は極めて少なく、しかも既存の病床はほぼ満床状態となっており、各病院に分散収容されている実情であるので当院はこれらの小児慢性疾患の専門医療施設を併設する計画をしている。その実施にあたっては、前項に掲げた既存医療設備もあり極めて好都合であるので、このことについては既に関係当局と協議中である。

### 4) 長期慢性疾患医療：

現在需要に応じ一般病棟に収容し治療している患者は比較的高齢者が多く、特に脳卒中及びその後遺症や、老人性疾患等が過半数を占めており、他はリウマチ性疾患等による関節節症などで、いずれもリハビリテーション等を要する

ものが多いので、これらについてのリハビリテーションには既に完備している屋内機能訓練棟を使用しているが、更に屋外の敷地内にも広大なリハビリテーション設備を計画しており、これらの専門的医療を継続していく。

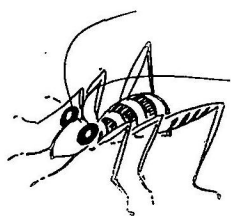
#### 5) 地域救急医療：

当院の設置されている圏内は医療機関が非常に少ないため、住民の当院への依存度は極めて高い状況にある。特に救急医療を要請して来院する患者が激増しており、休日又は夜間にあってはかなり多数の患者が来院するので、このようなことから地域内の医療関係者との連携を更に密にし、救急患者の取り扱いについては積極的に取組んでいく。

以上が当院の機能付与計画の概要であるが、当院では大津市に隣接した県最南端の甲賀郡信楽町に位置し、標高 300 米の丘陵信楽盆地は自然環境には非常に恵まれていることから長期療養を必要とする慢性疾患等には最適の地である。最近交通網も整備され、京阪地区のベッドタウンとしての宅地開発が活発であり、今後も人口増加が見込まれている。又、近くには医科大学もあることから診療上極めて好都合である。診療圏内にある一般総合病院は主に急性期の疾患を対象としているので、これらの諸病院では長期間の療養・治療を必要とする慢性疾患を対象とする当院を受け皿として期待している状況にある。

以上のような背景をふまえて、当院は既述の機能付与計画のもとに運営されることになった。

(国立療養所紫香楽病院長)



## 古医書へのご招待

### ある天才語学者の一生

松本治朗

七新薬大授(写本) 司馬凌海著 文久2年刊  
今回紹介する七新薬大授の著者、司馬凌海は蘭方医であるが天才的な語学者として知られている。彼は、幕末、明治にわたる激動の社会を生きぬき、波乱にとんだ一生をおくった。凌海は、天保13年(1839)佐渡新町で生まれ名を『盈子』、号を『損軒』と称した。すでに幼少時代から、文才に頭角をあらわしていたが、13歳のとき医師を志し江戸にでた。まず唐津藩の需学者山田寛に師事し、漢文を学んだ。さらに幕府医官であった松本良甫について蘭方医学を学び、ついで佐倉藩の名医佐藤泰然のもとで5年にわたり修業した。この佐藤泰然が主宰していた医学塾は順天堂(今日の順天堂大学の母体)といい、門弟は常時百数十名におよび、『日新医学は佐倉の林中より出づ』といわれ隆盛を誇っていた。このような中で凌海は、オランダ語習得にエネルギーをそそぎ、次第に頭角をあらわすに至ったのである。また、恩師泰然の実子でまた良甫の養子でもある松本良順が、凌海に対し同年輩ということで何かと世話をしたこと、が知られている。そのような事情があったので、安政4年、有名な蘭医ボンベが長崎海軍伝習所においてはじめて日本人に系統的な西洋医学を講義するにあたり、良順は凌海を長崎に同行させたのである。時に凌海19歳であったが、彼のオランダ語が堪能なことはオランダ人が驚くほどであったという。また、ボンベのオランダ語による講義を理解できたのは、塾頭となった良



順と凌海の二人だけであった。また、凌海はシーボルトの通訳をつとめたことも知られており、医学以外の西洋文明について造詣をふかめている。さらにプロシャ、イギリスなどの軍艦に出むき、各国語学の習得に努めた。

このように長崎で活躍した凌海は、文久2年（1861）『七新薬』を出版した。本書はポンペが紹介した当時の七種の新薬について記述したものである。七種の新薬とは、ヨードカリ、硝酸銀、酒石酸、キニーネ、サントニン、モルヒネ、肝油であり、これらの性状、薬効、用量について記載がなされている。当大学の河村文庫に収められている本書は、明治4年に雅松斎という人物が筆写したもので、書名も『七新薬大授』となっている。七新薬の原刊行本は、今日何冊か現存しており3巻3冊より成っている。ところが当大学の七新薬大授は、雅松斎が原本を一冊にまとめて筆写したもので、B4大の半紙が二つにおりたたまれ細かい文字が25枚にわたって記入されている。

肝油の章では、『医治切開に肝油は医薬としてその効用は非常に大きい。すなわち諸病に用

いられる。——中略——養育減少のため発症する者にはその身体を培養し、その血質を壮快にさせる目的でこれを用いる。——以下略——』とある。

しかし、凌海には奇癖も多く伝習所を有罪除籍され、そのため平戸で開業した。その後、明治維新となると再び上京し英医ウィリスの通訳となって大活躍した。又、ドイツのミュレル、ホフマン両医師が大学東校（東大病院の前身）に着任したときにはドイツ語に通訳となった。明治3年には本邦初のドイツ語私塾『春風社』を開設した。凌海の晩年の夢は病院医学校を独力で建設することにあったが、明治11年に肺結核にたおれた。そのため、明治12年、神奈川戸塚において41歳の若さで不帰の人となった。  
（産科学婦人科学助手）



\*\*\*\*\*

## 図書館の本を持出す時は貸出手続きを!!

\*\*\*\*\*

こないだ新着図書コーナーで見た本、借りよ  
思て、それらしい分類の棚に行ってみた。けれ  
どあらへんかった。誰かに先を越されたかと思  
て、ちょっとして又、行ってみたけれどやっぱ  
りあらへん。タッチの差でちゃう奴が借りたか  
と思て念のためカウンターできいてみた。なんと  
貸出中じゃないんやね。母さん、僕がみたいあ  
の本はいったいどこへ行ったんやというところ  
やね。尤も僕の勘ちがいちゃうこともあって、  
例えば「小児の腹痛」なんて本は当然WSのと  
ころやと思ひ込んでたら、図書館の人にWIの  
ところみはりましたか、なんに言われて、行っ  
てみたらありました。こんな時恰好つけて、何  
でこれがWIなんやねんなんてブーッとした顔  
するけど、内心はやっぱり嬉しいで、ともかく  
あったんやし借りて帰れるんやから。こんな風  
とはちゃうけど、ほかの本探してたらひょっこ  
りみつかることもあるし、図書館の人がアチコ  
チ探してくれて、ひょんなどころから出てくる  
こともある。そやけどどないしてもみつからへ  
んということがあって、僕も困るし、図書館の  
人も困りはててはる。

どうしてこんなことが起るんやろ？誰かがう  
っかり手続きせんと持ってたんやろか。先輩  
としゃべってたら、同じ本をカンファレンスル  
ームでみたなんていうんや。そやけどそれが図  
書館の本やとは限らへん。たいていは個人のも  
んか教室の蔵書なんやけど、稀には図書館のあ  
のグリーンの貸出カードがポケットに入ったま  
まのことがある。こういう時は図書館の人に  
言うべきなんやろけど、何やつげ口するみたい

やし、黙って僕が貸出手続きしといたこともある  
で。何にしても、行方不明というのは図書館  
の人も困るんちゃうやろか。

夏休み中の4～5日、2階の資料が利用でき  
んかったけど、これは蔵書点検ちゃうて、一体  
全体どの本が行方不明になってんのか。一冊一  
冊カードと照合して調べるという作業をしてた  
からなんやて。皆が勝手にその辺のあいてる棚  
にポイと置いといたために探せんようになって  
もた本と、ほんまにどっか行ってもた本と、は  
っきり白黒つけよというところかな。たいてい  
の図書館では毎年何日か完全に閉めてこうい  
うことするちゃうことやけど、うちではサービ  
スしながらの点検作業やろ、そら僕らは助かる  
けど、そやけどほんまは僕らのためにしてくれ  
はる仕事やのに、なんか遠慮がちにシンDOIこ  
してはるなんて、うちの図書館の人も、ほんま  
ヨーヤルデ。頭下がるわ。その結果なんや行方  
不明の本が多かったんやて。

うちの図書館の人は優しい人ばっかしやから、  
ウツカリミスにしてはちと多すぎるMissingや  
なあ、アチコチお金工面して、高い医学の新刊  
書買うてんのに、こんなようけ無うなったらガ  
ッカリやなんていうて、決して僕らを疑いの目  
でみるなんてことははらへんけど、こんなええ  
人らをしんから怒らさんうちに僕らの方が利用  
のマナーようせなアカンと思うで、ホンマ、マ  
ジに。

僕はちっちゃい時から図書館利用してるし、  
本屋とちがて、図書館の本は只やけど、そら家  
持て帰る時はちゃんと手続きせなアカンこと



位知ってるけど、ひょっとしたら只でもらえる  
思とる奴があるんやろうか？

そんなことお前、文化人、知識人いわれるも  
んになろうとしてる人間のすることちゃうぞ！  
なんやて？文化人、知識人てな、そんなクサイ  
もんになりとないてか？ほんなら言うけど、お

前のやってることは、メチャクチャ恰好悪い、  
ダサーイ、可愛いーくないことなんやぞ。わか  
っとんのか？

何？そうか、考えなおしてくれよったか。ま、  
お互いのためなんや、ちゃんと手続きして借り  
たってや～、タノムワ。

(S.W)

## 図書館の活動 (61.3.1 ~ 9.30)

- |   |   |
|---|---|
| 3/11 医学中央雑誌タイトルガイド研修会<br>(大阪)             | 7/18 「相互貸借の推進方策調査研究班」第<br>1 回会合 (京大)      |
| 4/17 第 38 回近畿地区医学図書館協議会例<br>会 (神大)        | 7/22 附属図書館委員会 (第 45 回)<br>滋賀医科大学雑誌編集委員会   |
| 4/18 近畿地区国立大学図書館協議会<br>(京大)               | 8/25~27 第 52 回国際図書館連盟東京大会<br>(青山学大)       |
| 5/15~16 第 57 回日本医学図書館協会総会<br>(山口)         | 8/26~29 JOIS研修会 (大阪)                      |
| 5/21 昭和 61 年度国立大学附属図書館事務<br>部課長会議 (東京医歯大) | 8/27~29 昭和 61 年度図書館等職員著作権実<br>務講習会 (神大)   |
| 5/27.29~30 JOIS研修会 (大阪)                   | 9/3~5 昭和 61 年度第 3 回目録システム講習<br>会 (学情センター) |
| 6/6 第 55 回近畿地区国公立大学図書館協<br>議会総会 (大外大)     | 9/10~11 5 回生医学文献の調べ方に関するガ<br>イダンス         |
| 6/10 第 11 回新設国立医科大学図書館会議<br>(東京)          | 9/19 「相互貸借の推進方策調査研究班」第<br>2 回会合 (神大)      |
| 6/11~12 第 33 回国立大学図書館協議会総会<br>(東京医歯大)     |   |

滋賀医科大学附属図書館報『さざなみ』

No. 26 1986 年 10 月発行

編集委員 小川晋平・田井泰弘・藤田 勝

発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町

TEL 0775-48-2080 Telex SGMLIBJ 5464-911